

千葉県感染症対策審議会 麻しん・風しん対策部会

議事要旨

1 日 時 令和6年1月15日（月）午後7時から午後8時まで

2 場 所 千葉県庁本庁舎1階 多目的ホール

3 出席委員等

- (1) 麻しん・風しん対策部会 委員（11名中10名出席） **同会議は成立**
猪狩委員、今関委員、大木委員、大野委員、影山委員、黒崎委員、高塚委員、
馳委員、濱田委員、吉田委員
オブザーバー 3名
傍聴者 0名

4 会議次第

- (1) 開会
(2) 議事
ア 部会長の選出について
イ 千葉県、全国の麻しん、風しん発生状況等について
(3) 閉会

5 開会

- (1) 出浦疾病対策課長あいさつ
(2) 委員紹介

6 議事概要

- (1) ア 会長の選出
千葉県行政組織条例第30条の規定により千葉県感染症対策審議会麻しん・風しん
対策部会長には大野委員が互選により選出された。
(2) イ 千葉県、全国の麻しん、風しん発生状況等について
○事務局説明
資料1により事務局から説明

○意見・質疑応答

委員：

まず一つ目、千葉県で1例麻しんの発生があったとのことでしたが、今の発生状況からはあまり孤発症例の発生というのは考えにくいかと思しますので、この時期に関東で何例か出ていた症例とのリンクがあったのかどうかや、その方の感染経路等、何らかの調査の結果はあるのでしょうか。

事務局：

ご質問いただいた患者については資料1のスライド9にお示しさせていただいておりますが、報道発表をしている千葉市さんの方の患者になります。もし差し支えなければオブザーバーとはなりますが、ご発言の機会等をいただいてもよろしいでしょうか。

委員：

お願いします。

事務局：

千葉市さんよろしく願いいたします。

オブザーバー（千葉市）：

千葉市医療政策課です。この患者について接触者調査を行いましたところ、特段の異常と申しますか、感染が広がっているような確認はされませんでした。また、ご本人の感染経路につきましても調査を行いました。確認できなかったところです。

委員：

それに関連してですが、資料の最後の方で仰っていた患者発生時の情報提供・情報共有の部分がすごく大事だと思っていて、というのも、各病院で、はしかや風しんの迅速検査はできないので、疑う場合には保健所を通して衛生研究所に検査をお願いする必要があります。

千葉県外に通勤・通学する方も多いので、県内で発生している事例はもちろんですが、隣の茨城県や東京都などで発生した情報も大切です。これらの情報が医療機関の現場の方

へ伝われば、検査を依頼する閾値を考える上で、非常に役立ちます。理想的には、ホームページに掲載されている情報を医療機関の医師や看護師が確認すべきなのですが、実際にはなかなか確認できていないところもあるので、特にはしかのような重要な事例に関しては、できれば新型コロナウイルス感染症対応で活用した色々な連携の枠組みやメーリングリスト等も利用して、ぜひ現場の医師等に伝わるような適切な情報提供方法を検討していただきたいです。

事務局：

大変貴重なご助言をいただきましてありがとうございました。情報発信・共有の方法等については今後、引き続き検討してまいりたいと思います。

委員：

スライドの21枚目について、MRワクチンの接種率2期が減少しているということですが、それでも95%近い接種率があるわけですが、2期は恐らく就学前だと思うのですが、小学校の入学時にワクチン接種状況を把握されたり、接種を勧奨されたり等そういう動きはあるのでしょうか。実際にこれらを行った結果この数値ということなのでしょうか。

委員：

私は市川市なのですが、市川市の場合は就学時健診の際に両親に接種状況などを確認してもらい、積極的に促すという形をとっているのですが、実際にやったかどうかの事後確認まではやっていません。千葉市の方はいかがでしょうか。

委員：

園内の定期的健診が6月と11月頃にあるのですが、年長児について、園医さんがどの程度接種しているかをチェックし、やっていない人に対しては接種勧奨をしてもらっています。それからもう一つは学校で実施する就学時健診の時にも親御さん達に、直接MRワクチン、日本脳炎ワクチンの重要性や接種忘れがないかの話をしています。

委員：

努力しているけれど、もう少しという感じでしょうか。

委員：

あと、いろいろな事情で1期を受けられなかった方たちが2期も受けないとなることがあり、特に1期が終わった後は自費となり、途中でいったん予防接種の路線から外れてしまった方たちがなかなか復活するのがすごく難しいと思いますので、いかに1期と2期の間の空白期間を埋めるように措置ができるかっていうのがはしかの予防接種率を上げるための大きな施策になるのではないかと個人的には思っています。

委員：

スライド21を見ると、以前と比べるとかなり上がってきているようで、医師会等でとても努力されていることが分かりました。ただ、残り5%の人たちをどうするのか、学校の現場だけではなくて地域の保健センターとかと関連して何か施策ができないかな、と。これからは少子化ですし、子供たちも前ほど多くはないので、学校に上がるタイミングとかに県の方で別のルート等で何かきめ細かい施策をできないかなと話を聞いていて感じました。

委員：

学校の方では（ワクチンを）受けましたかというようにやると思いますが、自費になってしまうと非常に勧奨しづらくなると思います。たとえば学校の方では、何かはしかの予防接種が2回終わっていない方への対策はやられていますか。

委員：

中学校の場合では、小学校の時に2回接種していない人たちに対しては一時期、積極的に受けましょうというように手紙を出したり等を行っていました。それ以上のことや個別の対策等についてはなかなか（実施は）難しいと感じます。

委員：

はしかの予防接種率についてですが、結局打ちそびれたまま、ずっといつてしまって、そのあと、全部自己負担になってしまうことで、接種率が100に近づけにくい実態があると思います。そして予防接種事業は各市町村で行っている事業ですので、市町村がいかに接種を安くするか、或いは打たないで小学生になってしまった子に対して小学校1年の間にどれだけレスキューできるかというのが今後の課題になると思います。ですから、こ

れを地域の市町村などの方に持って行って、（地域の）医師会等も合わせて一緒にやろう
よって話ができたらいいのかなと、市町村さんの方ははどのようにお考えですか。

委員：

集団健診だとほとんど3歳児健診を行っている市町村がほとんどだと思いますが、その
場で問診票や母子健康手帳を見ながら、接種していない予防接種があった場合は、その時
に個別で面談した保健師が接種勧奨を行っています。それでもやはり一定数は受けない人
がおりますので、未接種者については、市町村の方で個別の通知を出して、別の機会にや
っているという形です。

委員：

接種勧奨をしても、たとえば3歳以下、1期をやっていない場合には自費でやりましょ
うという話になってしまいますか。

委員：

1期の場合ですと、もっといろいろな機会、たとえば相談に来たりとか、1歳半健診時
とか、そういった関与する時には予防接種の履歴を確認して個別に関わるケースが多いで
す。

委員：

市町村の方でも医師会の方でも1期から2期までの間の空白期間をどうするかというの
は今後一つの課題になると思いますけれど、継続検討のような形で、今後考えられる対策
の一つとして、県の方でも気を付けていただければと思います。その他はいかがでしょう
か。

委員：

グラフを見ますと、2020年、正確に言うと2019年の12月末に新型コロナウイルス
感染症が中国で発生して、国内でも症例報告があり、それからずっと2020年～
2021年についてworld wideな形で続いていたので、外国からは日本ははしかは持ち込
みが多いのではないかとされているのですが、（麻しんが）今どれだけ広がっていて、
これからどうなっていくかということが課題になると思います。水際対策と言ったとして

も、発熱があって、発疹が出てきて、そこで初めて疑うような状況なので、はしかも風しんも非常にスクリーニングしにくいという点があると思います。さっきお話しにあったように、迅速診断キット等がないので、すぐPCRしましょうとはなかなかいかず、外来等に何回も来ていただいた後、ようやくやるという話になることが多いと思います。

千葉県衛生研究所さんの方で、いかに早く見つけるか、ということについて何かありますか。

委員：

今現状としては、少し（話が）反れてしましますが、衛生研究所としては医療機関から保健所を通して、場合によっては直接やり取りする場合もあるかもしれませんが、検体が入り、検査をして、基本的には依頼を受けた際には即日に出すように対応しています。書面の結果等は後日になることもありますけど、いわゆる陽性か陰性かということについてはなるべく速やかに現場に返せるように対応しています。

あと、水際という部分については、なかなか難しい部分もあり、抗原検査キットとかが（今後）開発されたりした場合には、速やかに導入するというような形になるかもしれませんが、現状、まだその段階には至っていません。

委員：

千葉県衛生研究所では年間で何例くらい検査されていますか。

委員：

麻風しんの数に関しては大体（前年比で）1.1～1.2倍といった感じです。実際の数としては大体100～150程度の検査数になるかと思います。正確な数につきましては再度確認して事務局から改めて報告するようにします。

委員：

今はしかも風しんも全例保健所報告になっていますが、保健所長会等でたとえばその辺りは疑いがある時しか（検査を）やらない等といった話はいかがでしょうか。やはり実際にはこの数字以上に（報告が）あがってたりしていますか。

委員：

保健所の方では、発疹がある等、麻しんが疑われる場合には医療機関さんの方から連絡をいただいて、検査に出しているところです。結果が陽性だった時に迅速に動けるように、あらかじめ医療機関の先生や患者さんに可能な範囲で調査をしていただいています。

（事務局からの）報告であったとおり、今のところ市川の方でも患者は出ていないのですが、少し話が逸れてしまうのですが、医療機関さんの方で結構患者さんのトリアージとかをやっていることが多いんですけど、職員の方の接種歴とか抗体価を把握されていない医療機関さんが時々いらっしゃいます。保健所の方でも情報発信する中では注意喚起をしているのですが、（麻しん）患者が発生していないので、あまり強い勧奨やお願いができないということがあります。もし皆様方も機会があれば、医療機関とか学校の先生方の接種歴等を今一度ご確認いただくとありがたいかなと思います。

委員：

すいません。それを言われてしまうと、私たちは新規採用職員を採るときワクチン接種歴を調べて報告してもらっていますが、把握できるのは大体3割程度で、7割は接種歴も何も情報がない状況です。母子手帳のコピーを出してほしい等色々話してはいるのですが。医療関係者ですらこの程度なので、そうではない人はもっと低いと思います。結果的に抗体価を測ることをしないと客観的な証拠がないというのが実状です。

委員：

また抗体価を測ると2回打っているにも関わらず大学入学した後の健康診断等で結構陰性になっている方がいらっしゃって、その陰性になっているということをどのように評価するかというのがすごい難しいということが言われています。

だから少なくとも2回打っていたら、抗体価は調べないけれども、1回しか打っていないのであれば、抗体を調べる等の仕組みがある程度できると学校現場もとてもやりやすくなると思います。

委員：

その一方で抗体がすべてではないという意見も多いし、2回接種していることが大事だという意見もあるので、どこに標準があるのかはやはり難しいと思います。

委員：

接種歴の確認が重要であると強調される時代になったので、私たちの病院でも接種歴を確認するようにしています。入職前に母子手帳の情報を確認するにはかなりの労力がかかります。この作業を行う際に、ワクチン接種を行ったものの、本人が接種した医療機関から接種記録を渡されていないケースを頻繁に経験します。勤務している病院でワクチン接種を行った場合でも、病院側は接種歴を把握しているものの、本人には接種歴を渡していないと思われるようなケースも見かけます。医療機関でワクチン接種を行った場合には、本人に確実に接種記録を渡して保管してもらうことを、まずは徹底していく必要があると思います。

委員：

ロット番号とか日付とかペラ紙1枚渡すようなイメージで。

委員：

そうですね。何かしらの記録を渡すということは必要かなと思います。

委員：

いままで話でてきたのは全部1期2期の話なのですが、今、国の方では風しんの5期ということでやっていて、千葉の方でも希望する50歳以下の方にも行うということでやっていますが、やはりどうしても医師が市町村等へ行く時に勧奨したり、色々な情報を市で出すだけでは限度があります。たとえば（以前に）中小企業さんなどでも一時期健診などと合わせて採血して、その機会と一緒に風しんの抗体を調べる等をやっている企業もありました。健康診断と一緒にの機会では企業としてやらないというところが多く、各々で医療機関に行って調べてくださいといった形になると思いますが、勧奨等はいただいているのでしょうか。

委員：

詳しい情報は持っていません。私どもは中小企業団体という名前に入っておりますように、中小企業の方々が集まって、協同組合組織を作っている、そうした団体を相手にしています。工業団地とか卸売団地とかショッピングセンターとかそういった組織単位を作るお手伝いをしている機関です。ですから、そういったところではたとえば工業団地では

その中に入っている企業さんを集めてそうした活動をしている可能性はありますけれど、個々の企業ではできないものを皆でまとめて事務局がお膳立てをするということはあるかと思うのですが、実際やっているかどうかについては私の方では把握はしておりません。

委員：

たとえばショッピングセンターで発生したら大変ですよ、なので職員さんたち調べておきましょうといったような形で言ういただけると少しは検査率、接種率が上がるのかなと思います。

(3) 閉会 午後8時00分

(4) その他

・後日、委員から県衛生研究所における麻しん疑い例に関する検査実績について情報提供があった。

- | | |
|-----------------|------------------|
| ➤ 令和4年度 | 148件 |
| ➤ 令和5年度(4~12月分) | 238件(年末時点で約1.6倍) |